

令和5年2月定例会 一般質問概要

質問者：中谷 恭典議員

質問日：令和5年3月3日（金）



大阪維新の会、大阪府議会議員団の中谷 恭典です。
通告に従いまして、順次質問をさせていただきます。

1. 基礎自治機能の充実・強化に向けた取組み

最初に、基礎自治機能の充実・強化に向けた取組みについてお伺いいたします。

まず、我が会派の代表質問でも問いましたが、府内市町村の基礎自治機能の充実・強化に向けた取組みについて伺います。

私の地元である柏原市・藤井寺市は、羽曳野市を加えた3市で、現在消防やごみ処理の分野で一部事務組合を設置し、連携して業務を行っており、特に消防については、近隣の市町村とともにさらなる広域化に向けた協議を開始するなど、近隣団体との広域連携は一定進んでいる状況です。

しかし、柏原市・藤井寺市では、今後総人口の減少もさることなが

ら、生産年齢人口がそれ以上のペースで減少していくことが予想されています。他の多くの市町村と同様、住民サービスを担う専門職をはじめとした人材の確保・育成や、公共施設の適切な維持管理が非常に大きな課題であるなか、財政に関しては、財政力指数や、標準財政規模に対する財政調整基金残高の割合といった数値が、いずれも府内の都市平均よりも厳しい状況です。行財政運営はますます厳しさを増すことから、早急に、さらなる対応策を講じていく必要があると考えます。

そこでまず、昨年4月に設置された市町村局において、市町村間のさらなる広域連携の推進や民間企業などと連携したサポートをしていると聞いていますが、具体的にこの1年どのような取り組みを行ってきたか、総務部長に伺います。

<総務部長答弁>

- 市町村が安定して住民サービスを提供できるよう、行財政改革に加えて、他の市町村や民間との連携を一層進めることが重要。
- そのため、広域連携に関する意見交換の場である地域ブロック会議において、専門人材に関するアンケートを実施したり、公共施設の立地と老朽化状況を地域ごとに示すことで、人材の確保や施設の最適配置について現状や課題を共有した。
そのうえで、府からは埋蔵文化財業務の他団体への委託やスポーツ施設の相互利用、水泳授業での民間プール活用など先行する団体の取り組みを紹介し、市町村の検討を後押ししている。
- 併せて、府の関係部局と連携し、DXの推進に向けたシステムの共同調達や、大学や民間の知見も活用したインフラ・建物の管理に関する技術的サポートを行うなど、市町村が抱える課題の解決に向けて積極的に取り組んできた。

ありがとうございます。府として、市町村の行財政改革や広域連携をしっかりと後押ししてほしいと思います。

さて、一方で、急激な人口変動により市町村の行財政運営がさらに厳しくなることを考えれば、将来のあり方について住民や議会と議論していくことが重要です。

昨年8月に私の働きかけで、柏原市と藤井寺市で、超党派の市議会

議員や市職員を対象に、市町村局から基礎自治機能の充実・強化に関するお話をいただきました。その中で、府からは、複数団体での取組みを積極的に検討する必要があることや、地域の状況によっては合併も選択肢の1つになることなどについて説明があり、市長や議員にとって将来の行政運営などを考える貴重な場になったと思っています。

このような取組みを府域全体でさらに進めていくとともに、府においては、広域自治体として、それぞれの市町村における取組みを引き続きしっかりコーディネートしていただきたいと思いますが、今後どのように市町村への支援を行っていくのか、総務部長に伺います。

<総務部長答弁>

- 今後、急速に進む人口減少や高齢化などにより予想される行政課題とその影響を見すえながら、市町村に対して、積極的にめざす未来像についてのオープンな議論を促していくことが重要。
- このような考え方のもと、今年度、柏原市と藤井寺市においては、人口動態や財政状況を示すとともに、それらを踏まえ、さらなる広域連携や将来のあり方に関する検討の必要性について、首長や議会と意見交換を行った。
引き続き、ニーズに応じて市町村とこのような取組みを行うとともに、人口やインフラなどの長期的な見通しを客観的なデータで明らかにする「地域の未来予測」を広域で作成するよう提案していく。
- そのうえで、必要な対応方策の検討や実施をしっかりサポートすることにより、府域全体で基礎自治機能が充実・強化されるようスピード感をもって取り組んでいく。

ありがとうございます。

柏原市と藤井寺市の試みは、市町村の中で初めての試みであるということも、市町村局から聞いています。

一度、議場の議員の方々も、実質10年、20年先を見据え、選出されている基礎自治体の意見の吸収、肌で感じていただいて、そして府の考え方、連携を持った広域連携のあり方という部分の体験をする

ということも府議会議員の仕事ではないかと思えます。

今後の人口減少等を考えると、基礎自治機能の充実・強化は非常に重要です。

府としても様々に取り組んでいただいていることは承知していますが、時間はありません。

引き続き、府としてしっかりと取り組んでいただくようお願いいたします。

2. 南大阪の魅力づくりと鉄道の乗り入れ

続いて、南大阪の魅力づくりと、それに伴う鉄道の乗り入れ、レガシー構想についてお伺いをいたします。

昨年末に策定された「大阪のまちづくりグランドデザイン」では、都心部の拠点開発効果の府域への波及や多様な働き方・暮らし方を選択できるまちの実現に向け、「大阪の中核を担う拠点エリア」を位置づけています。

その中で、私の地元である柏原市・藤井寺市を含む「南阪奈 南河内 都市軸 活性化エリア」が位置づけられており、大和川などの自然環境、世界遺産の古市古墳群や、日本最古の国道である竹内街道などの歴史・文化資源等の集積、農空間やフルーツなどの農産物を活用した回遊性の向上や地域活性化等の取組が示されています。その一つとして、明日「南河内フルーツフェス@てんしば」において、広域農道の愛称「南河内フルーツロード」とそのロゴマークが、発表されることとなっており、その取組みがより一層進むことを期待しているところです。

そこで、大阪のまちづくりグランドデザインにおける「南阪奈 南河内 都市軸 活性化エリア」の設定の考え方とまちづくりの方向性について、大阪都市計画局長にお伺いします。

<都市計画局長答弁>

- 「南阪奈 南河内 都市軸活性化エリア」は、南阪奈道路、国道 309 号や JR 関西本線、近鉄南大阪線や長野線などを含む南阪奈 南河内都市軸の発展を担うエリアとして位置づけたもの。
- 具体的な範囲としては、まちづくりの動向やプロジェクトの一体性・影響範囲に加え、市町村の意見などを踏まえて、八尾空港周辺、

- 柏原駅から、富田林駅、山麓部までを含むエリアを設定している。
- 今後、当該エリアにおいては、関係部局等と連携し、議員お示しの、大和川における河川空間でのにぎわい創出や、歴史・文化資源等をつなぐ観光コンテンツ・ルートの整備、「南河内フルーツロード」を活用した取組などを促進することで、エリア外から多様な人を呼び込む都市魅力に加え、良好な住環境を備えたエリアの形成をめざすこととしている。

ありがとうございます。

「大阪のまちづくりグランドデザイン」では、今、答弁のあった南阪奈 南河内 都市軸活性化エリアをはじめとして、南大阪にも焦点をあてており、私としては、一定評価をしているところもあります。今後、このグランドデザインを踏まえ、南大阪にある歴史・文化資源を活かした取組みを、多様な主体が一体となって、推進していったほしいと思います。

さて、このグランドデザインにおける取組みが進んで行くことで、南大阪のみならず、大阪府全体が更に成長、発展していくこととなります。

大阪が魅力的なまちとして発展していくためには、人が円滑に移動できることが必要不可欠であり、鉄道はその移動手段として非常に重要な役割を担っていると考えています。

私は3年前にレガシー構想ということで一般質問をさせていただきました。

大阪府域には様々な鉄道が整備されていますが、鉄道の相互乗り入れについては、地域における鉄道の一層の利便性の向上、沿線観光資源へのアクセス強化、さらには、来るべき北陸新幹線やリニア中央新幹線の開業を見据えたこれら広域鉄道とのアクセス性の向上などの観点から、重要な取組であると考えます。

そこで、鉄道の相互乗り入れの実現に向け、どのように取り組んでいるのか、都市整備部長に伺います。

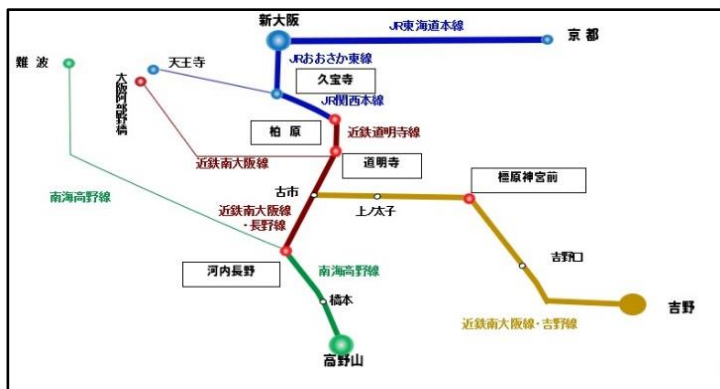
<都市整備部長答弁>

- 鉄道の相互乗り入れには、企業経営が成り立つとともに鉄道事業者が主体的に取り組む意向を持つことが必要。そのためには、鉄道

需要を創出する視点が重要との意見を鉄道事業者からいただいているところ。

- 需要創出に向けては、これまでも、鉄道事業者や地元自治体とともに、例えば、デジタルサイネージによる周辺施設の案内やわかりやすい乗継案内を行うなどの取組を進めている。
- 引き続き、鉄道事業者との意見交換を実施するとともに、関係者と連携し、鉄道の需要創出につながる取組を進めていく。

鉄道の相互乗り入れについては、鉄道事業者とも議論されてきたとのことですが、



私の地元にある柏原駅でJR関西線と近鉄道明寺線を、また、道明寺駅で近鉄道明寺線と近鉄南大阪線をそれぞれ相互乗り入れさせることで、JR おおさか東線を経由し、国土軸の新大阪と柏原、南河内地域、奈良県の吉野方面までつながることになります。

近鉄道明寺線は、現在、単線区間を往復運行しているだけの路線ですが、相互乗り入れが実現することで、大阪中心部と大阪南部地域などを結びつける大きなポテンシャルを有する路線となり、単線区間を有効活用した相互乗り入れのモデルにもなり得るのではないかと考えているところです。

そこで、近鉄道明寺線の相互乗り入れの実現に向け、どのように取り組んでいるのか、都市整備部長に伺います。

<都市整備部長答弁>

- お示しの近鉄道明寺線の相互乗り入れの実現については、鉄道需要の創出が重要であることから、これまで、鉄道事業者とともに、

道明寺駅と柏原駅において、駅周辺の観光情報も含めた案内看板の設置や乗継のためのわかりやすい案内表示を行ってきたところ。

- さらに、地域の魅力を満喫できるよう、鉄道を利用したモデルルートを地元自治体などと作成し、今年度、イベントでのチラシ配布や、駅、観光案内所などでの配架による周知を行ってきたところ。
- 引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、関係者と連携し、鉄道の需要創出につながる取組を進めていく。

答弁にもあったとおり、新型コロナウイルスの感染状況にも左右されることにはなるとは思いますが、鉄道の相互乗り入れの実現に向け、鉄道事業者が主体的に取り組む環境を整えるために、まずは、鉄道需要の創出にしっかりと取り組んでもらいたいと思っています。

さて、大阪では、「2025年大阪・関西万博」の開催が控えており、外国人を含む多くの方が来阪されることを考えると、例えば、MaaSなどの新たな技術を活用して、乗継時の負担軽減や観光地などへの周遊をしやすくするような取組も必要と考えます。

そこで、「2025年大阪・関西万博」の開催を見据え、鉄道の利便性向上にどのように取り組んでいくのか、都市整備部長に伺います。

<都市整備部長答弁>

- 万博に向けては、現在、国や地方公共団体、交通関係団体等で構成される「関西 MaaS 推進連絡会議」において、MaaS アプリを活用した多様な公共交通の情報提供や企画乗車券の販売などの取組について議論されている。
- こうした中、大阪府では、鉄道事業者における MaaS による企画乗車券などの取組が加速されるよう、今年度から補助制度を創設し、鉄道駅の改札機における QR コードやクレジットカード対応などの取組を支援しており、令和5年度も継続して支援することとしている。
- 引き続き、鉄道事業者等と意見交換を行いながら、様々な利用者にとって使いやすい MaaS の実現など、新たな技術を活用した鉄道の利便性向上に取り組んでいく。

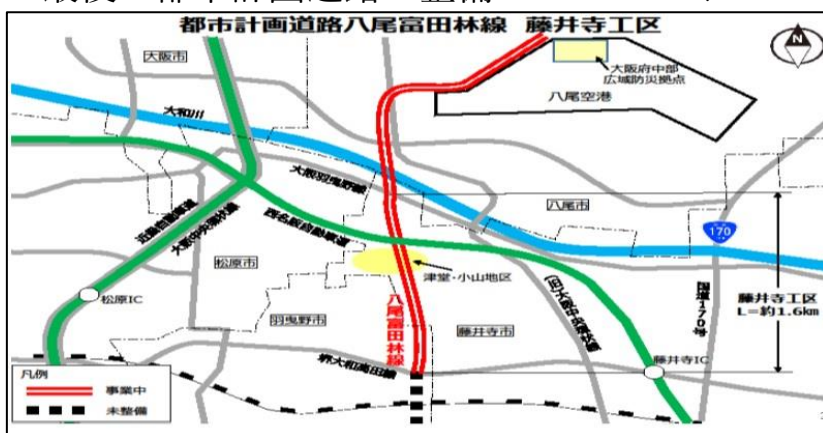
ありがとうございます。

引き続き、乗り継ぎ、鉄道乗り入れも考えていただき、鉄道の利便性を大いに発揮していただくようお願いいたします。



3. 都市計画道路の整備

最後に都市計画道路の整備についていくつかお伺いをいたします。



都市計画道路八尾富田林線は、大阪中央環状線や国道 170 号を補完するとともに、大阪府中部広域防災拠点へのアクセス機能の強化に

資する幹線道路。私の地元藤井寺市域では、府道大阪羽曳野線から府道堺大和高田線までの延長約 1.6km を藤井寺工区として、事業が進められているところです。

沿道の津堂・小山地区では、八尾富田林線の整備にあわせたまちづくりを進めようと、令和2年度に市と地元住民からなるまちづくり協議会が発足され、現在、土地区画整理事業の具体化に向け意見交換が進められており、来年度中の準備組合の設立をめざしていると聞いています。私は、八尾富田林線がまちづくりと一体を進めば、より一層、地域の活性化が図られるものと考えています。

そこで、八尾富田林線藤井寺工区の現在の取組状況と今後の進め方について、都市整備部長に伺います。

<都市整備部長答弁>

○都市計画道路八尾富田林線の藤井寺工区では、これまで、事業に必要な土地の約3割が取得済みとなっており、現在、残りの用地買収や文化財調査を実施しているところ。

また、津堂・小山地区では、まちづくりと整合を図るため、地元藤井寺市と事業調整会議を設置し、土地利用計画を踏まえた道路構造や事業スケジュールなどの検討を進めている。

○引き続き、用地買収等を進めるとともに、来年度には府道堺大和高田線の北側約300メートルの区間において工事に着手するなど、早期整備に向け着実に取り組んでいく。

ありがとうございます。

富田林土木事務所からは、令和9年度の完成とお聞きしています。

よろしく願いいたします。

続いて、都市計画道路の大泉本郷線及び川北柏原線についてです。



これらの都市計画道路は、国道(旧)170号と大阪外環状線を結び、国道25号などの混雑緩和や地域の活性化、災害時の緊急交通路としての役割を担う道路です。

JR 関西線との交差点を含む約 250m が、3月19日に開通すると聞いており、これにより都市計画道路法善寺築留(つきどめ)線から国道25号までが結ばれることから、柏原駅周辺の混雑緩和や歩行者の安全確保が図られるなど、地元として大変喜ばしいと思っていますところ。

私は過去にも何度も質問させていただきましたが、開通する区間に続いて、国道25号から大阪外環状線までの約1.0kmを整備することで、より一層、交通の円滑化や柏原駅へのアクセス性の向上が期待され、沿道まちづくりによる地域活性化の取組みも促進されることから、早期整備が必要と考えています。

そこで、大県本郷線及び川北柏原線の国道25号から大阪外環状線までの区間の取組状況と、今後の見通しについて都市整備部長に伺います。

<都市整備部長答弁>

- お示しの区間は、令和2年度に策定した「大阪府都市整備中期計画」に、事業着手する路線として位置付けたところ。
- これまで、道路予備設計等を実施し、本年1月には、大阪府建設事業評価審議会での「事業実施適切」との意見具申を踏まえ、事業実施を決定したところ。
- 今後、早期整備に必要な、地元市と用地買収にかかる協力体制の協議や現地測量等を実施し、来年度中に事業認可を取得の上、事業に着手していく。

ありがとうございます。

柏原市域には金属・機械製造業者など約90社が集まる企業団地をはじめとする工場集積地があり、また、ぶどう狩り園や、日本遺産である「龍田(たつた)古道(こどう)と亀の瀬」などの観光地も存在しています。これら産業や観光を支える高速道路として、柏原市域の南部を西名阪自動車道が通っており、市内には柏原インターチェンジが

あるものの、大阪方面との往来しか利用できず、奈良・三重方面との往来には、国道 165 号を經由し、奈良県の香芝インターチェンジか藤井寺インターチェンジを利用しなければならない、問題の高速道路であります。

このような状況を踏まえ、柏原市では、



西名阪自動車道の藤井寺と柏原のインターチェンジ間に、市内の産業や観光などの立地特性を活かしたスマートインターチェンジの設置を検討中とのこと。このスマートインターチェンジは、ETC搭載車を限定としているために簡易な料金所で済み、従来のインターチェンジに比べ低コストで導入できると聞いています。

私は、この計画が実現すれば、柏原市域のみならず南河内地域の発展に寄与するものと大きな期待をよせています。

そこで、西名阪自動車道におけるスマートインターチェンジの設置に向け、柏原市の取組をどう支援していくのか、都市整備部長に伺います。

<都市整備部長答弁>

- スマートインターチェンジは、高速道路へのアクセス強化が図られ、物流の効率化や観光振興等、地域の活性化に寄与するもので、お示しのスマートインターチェンジも同様に、地元市はじめ南河内地域の活性化に寄与すると考えられる。
- 現在、柏原市では必要性や設置位置の検討を進めており、令和5年度には交通量推計などを踏まえた費用対効果の分析を行う予定と聞いている。
- 今後、府としては、これらの分析結果を踏まえ、必要に応じ、国等

の関係機関との協議調整や府道に接続する場合の検討など、市の取組を支援していく。

ありがとうございます。

グラウンドデザインにもあったフルーツロードの終着点が柏原市域、羽曳野市域であると思っています。

この西名阪自動車道、柏原スマートインターチェンジに大きな力を大阪府もお貸しいただくようお願い申し上げ、私の一般質問を終了いたします。

ご清聴ありがとうございました。